

緑豊かな森になれ



3月7日(水)、大川小学校の児童や森林組合の関係者など約200人が、釜谷地区の西宮山に、「コナラやクヌギ、クリの苗木400本を植樹しました。これは、「実りの里山創生事業」として実施されているもので、今年で3年目を迎えます。

参加した児童たちは、冷たい北風の中、身長くらいの大サイズの苗木を、穴を掘っては次々と植えていきました。また、自分が植えた木の成長を見守ることができるように、苗木の脇には名前を彫った支柱を添えています。

河北地区

先輩から後輩へ



2月20日(火)、広瀨小学校で、「河南鹿嶋ばやし」の伝承式が行われました。河南鹿嶋ばやしは、約350年前、疫病や不作が続いた折りに五穀豊穰・無病

息災を祈願して鹿嶋神社に奉納したのが始まりとされ、その後、春を告げる山車祭りとして地区に受け継がれ、毎年4月に行われるお祭りでは、広瀨小学校の6年生がお囃子を務めています。このため、毎年この時期に卒業する6年生から5年生へと太鼓のバチや横笛などの引き継ぎが行われています。



雄勝地区



古きよき伝統技術「天然スレート葺」を今に伝える

石盤貫(文化財選定保存技術講習会が2月16日(金)、明神地区において開催

された。天然スレート葺(石盤貫)は、雄勝石を6ミリメートル前後の厚さに割り、屋根

今に伝える



瓦職人などを対象に後継者育成を目的として国の補助を受け行われているものです。今回で2回目となるこの講習会では文化財選定保存技術(石盤貫)保持者の佐々木信平氏が講師となり、模型を使ったり実際の屋根で「割り出し・軒付け・平葺き・谷収め」などの技術を指導し、集まった受講者たちは真剣に取り組んでいました。

桃生地区



1年間の学習を終え

生きがいづくりを目的に開催している桃生町長生大学の卒業式・修了式が

2月21日(水)、桃生公民館文化ホールで行われました。今年度卒業・修了を迎えられたのは76人の皆さんで

す。一人一人に卒業証書や修了証書が授与されました。

学生を代表し、卒業生の西條二三子さんは、「新しい経験や出会いを大いに楽しむことや、心身ともに、健康で心豊かに生きることの大切さを学びました。お世話になった方々に心から感謝申し上げます。」と謝辞を述べられました。

長生大学は、60歳以上の方が通うことができる4年制の大学と大学院です。平成18年度は11回の講座が開催されました。



このコーナーでは、催し物やまちのできごと、地域の情報などを紹介します。

まちの話題

牡鹿地区



新しい世界へスタート

3月9日(金)、寄磯中学校で卒業式が行われました。

式では、保護者や在校生、先生らが見守るなか、3人の卒業生一人一人の名前が読み上げられ、校長先生から卒業証書が手渡されました。

中学校生活の3年間で協力し、助け合い、そして切磋琢磨して一緒に歩んできた3人は、たくさんの思い出や新たな生活への期待と不安を胸に、通いながら学び舎を後にしました。

卒業おめでとう！

北上地区



「北上川」を語る

川や海の水環境保全に関わる取り組みを発表し意見を交換する「第7回南東北「川・水環境」ワークショップ」が、2月24日(土)・25日(日)に北上公民館で行われました。河川に関わる活動を実施しているNPOと行政が、協働で企画・運営するワークショップで、毎年開催されています。

今年は、南東北3県から16団体の参加で行われ、市内からは、橋浦小、吉浜小、北上中、(有)熊谷産業、水と

緑の環境フォーラム・ものつ、三陸道の自然を守る会が参加しました。



子ども分科会など3つの分科会に分かれて各団体から活動発表が行われ、それぞれの取り組みについて活発な議論が交わされました。

審査の結果、水と緑の環境フォーラム・ものつ、「北上川の大人の川遊び」が、グランプリを獲得し、(有)熊谷産業の「ヨシ原と共に生きる」が準グランプリを受賞されました。

石巻地区

実習の成果を披露

2月26日(月)から3月9日(金)まで第3回特殊教育共同実習所作品展が、石巻郵便局を会場に開催されました。



これは、特殊教育共同実習所で、実習生が実習のなかで製作した作

品の展示会を開くことにより、今年度の実習成果と活動内容を一般の方にも広く知ってもらおうとともに、特殊教育に対する理解と関心を高めるために開かれているものです。

縫製作品(花ふきん、セカンドバッグ、エプロンなど)や七宝焼き作品(キーホルダーなど)オーブン粘土を使った陶芸作品、メモ帳、カレンダー、コンパクトブロックなど約150点が展示されました。

郵便局を訪れた人は、実習生が心を込めて作った作品を興味深そうに眺めていました。

大規模災害への備え

3月2日(金)、石巻文化センターにおいて「石巻市災害ボランティアフォーラム」その時どう動く? とともに見逃さないために」が開催されました。

これは、近い将来、高い確率で起きるとされている宮城県沖地震などの大規模災害が発生した際に「石巻市災害ボランティアセンター」が市民にとってどのような機関となるべきか、被災した住民の役割・災害ボランティアの活動ルールへの理解を図ることを目的に開催されたものです。



3人のパネリストがパネルディスカッションを行いました。

大規模災害が発生した場合の対策の現状やボランティアの具体的な役割などが話し合われ、ホールを埋めた参加者は熱心に聞き入っていました。